

アドバイザー派遣事業 実施レポート

西部学びの会
代表 狩野 実

1. 研修テーマ 学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善
2. 研修日 平成27年6月4日（木）
3. アドバイザー 杉江修治 教授（中京大学）

4. 研修のまとめ

県西部のいくつかの学校と共に協同学習に取り組み、「西部学びの会」を立ち上げてから6年目を迎えた。生徒がお互いに学び合う中で、より良い人間関係を育み、生徒の主体性、やる気、学力を伸ばしていくことをねらいとしている。授業研究の際には、学校間でお互いに声を掛け合い、授業を見合いながら、研修を深め合っている。本年も、そういった学校が集まり、教育センターの支援を受けながら研修を計画・実施することができた。

今回の研修では、次の2つの視点を定め、授業研究を行った。

- | |
|--------------------------------------|
| 視点1 生徒が「課題が明確で、振り返りは適切だったか」 |
| 視点2 生徒が「ねらいの達成に向けて、学び合い・高め合いができていたか」 |

事後の研究会では、上記2つの視点を中心に、様々な学校の先生とマトリクス法によるグループ討議を行い、①工夫・良かった点、②手立て・改善が必要なことについて8つのグループで話し合いを行った。その後、8グループの中から2グループを指名して発表し、全体で共有した。各グループの内容をまとめると以下の内容である。

①工夫・良かった点、さらに伸ばしたいこと	②手立て・改善が必要なこと
<ul style="list-style-type: none">・課題がはっきりしてわかりやすく、1時間の授業の流れが提示してあり、今、何をしているのかという視覚的確認があつて良かった。・基本文を練習することにより、学び合いのための基礎が定着していた。・しっかりと自立解決をした上で、グループ協議に役立てる流れが大切である。・ジャンケンゲームなど積極的にコミュニケーションができていて、分からない生徒が自然と聴ける関係や雰囲気づくり、仲間づくりなど協同学習の基礎となる学習集団ができていた。	<ul style="list-style-type: none">・話し合いの手順や時間の確保など、もっとわかりやすい工夫があつても良い。また、グループ協議を円滑に進めるためのツールを活用する方がよい。また、発表の声、字の大きさの指示があつた方がよい。・振り返りポイントをまとめる時間がもう少しあつた方がよい。・めあてを達成している生徒をさらに伸ばすための手立てを考える必要がある。・具体的な支援、具体物の提示など視覚的な支援が必要である。・最後に席をもどして自力解決の場面を設定することで、理解度が見取れる。

アドバイザーの杉江先生からは、今回の授業についての指導講評をふまえて、協同学習について話をしていただいた。「協同が支えるアクティブな学び—考え方と進め方」というテーマのもと、①学びのマップづくり、②協同の仕掛けづくり、③授業における教師の役割、という3つの内容に分けて説明していただいた。①については、生徒一人ひとりに学びのマップ（学習課題、学習の筋道、学習の値打ち）を持たせて学習に入ること。よい学習課題の条件は明確であること—ゴールの明確化、本時・単元の確かな「振り返り」の必要性、明確な課題（集団課題）の設定や単元の見通しづくり、指導目標から学習目標を考えそれを達成できるための学習課題づくり、個人思考と集団思考を適切に組み合わせた授業の流れ、振り返りの工夫が必要であること。②については、学級の仲間全員の成長を目指す学級づくりを行うこと。③については、教師は学びのコーディネータ、仕掛けづくりが大切であり、授業を教師主導から生徒主導へ転換すること、すべての生徒は成長意欲を持っていることを確信することが必要である、ということであった。また、校区の小学校の先生の参加も多かったので、協同学習について改めて共通理解できたことが今後の小中連携にとっては有益だった。

生徒同士の「学び合い」は、仲間作りはもちろん、学力面でもプラスに働くものであると考えている。今後もそれぞれの学校で「学び合い」の実践がさらに深まっていくように声を掛け合い、研修を深めていきたいと考えている。

5. 添付資料

- ・指導案、ワークシート